

児童画による国際交流・対アメリカ合衆国・昭和20年代 — 公文書による —

A Study on the International Exchange through Children's Drawings
Between Japan and The United States of America in the Syowa 20's
— Based on the Official Documents —

草 尾 和 之

Kazuyuki KUSAO

美術教育講座

(平成19年10月1日受理)

The Diplomatic Record Office of the Ministry of Foreign Affairs (Azabudai 1-5-3, Minato-ku, Tokyo) opened the files of diplomatic documents to the public on June 15, 1998. It is the 14th opening in total to the public. I investigated those files. As a result, I discovered the documents concerning the international exchange of the children's works between Japan and The United States of America in the Syowa 20's from two files (No. "I'-1-1-0-5" and No. "I'-1-5-4-5").

They are concerning the following four.

1. The Request concerning mediation drawn from Litton elementary school in California state (in 1953)
2. The Request concerning mediation drawn from The Shinkou Shinbun (in 1953)
3. The Exchange of drawings by inpatients between The Vineland Training School in New Jersey State and The Tokyo Medical Treatment Reformatory (in 1954)
4. The Exchange of drawings by students between Silver Main School of Fine Arts in Norwalk City Conn. (in 1954)

はじめに

外務省外交史料館¹⁾の平成9年度外交記録公開(平成10年²⁾6月15日《月》付, 通算第14回公開)によって初公開された文書ファイルの中に, 絵画等児童作品による外国との国際交流事業について外務省が関わった際の通信文等を綴じた文書ファイルが含まれている。『学生・生徒及び児童作品展覧会関係雑件(Ⅰ' 門1類5項4目5号)』³⁾はその1つである。私はこれを調査・考察し, これまでに4つの論文にまとめてきた^{4) 5) 6) 7)}。本稿はそれらに続くものである。今回は前掲のファイルに加え, それと同じ機会に初公開されたファイル『学生・生徒及び児童作品交換関係雑件(Ⅰ' 門1類1項0目5号)』も研究対象とし, 昭和20年代の日本とアメリカ合衆国との間における児童画による国際交流事業を調査し, 考察する。前者のファイルには国別に8つの見出しが設けられている。日本とアメリカ合衆国間の文書は, 2番目の見出し「(2) 日米間の部」内に, 発行日付順に綴じられている。ここから見出すことのできた事業は合計3件である。また後者のファイルは国別に22の見出しが設けられている。その4番目の見出し「(4) 米国」内に1件の事業を見出すことができた。これら計4件の事業について, ファイルに綴じられた文書から事業の概要や趣旨を読み取り, 考察する。なお以下に出てくる「文書1-1」「文書1-2」などの名称は, 文章が煩雑になるのをさけるため, 本稿の筆者が本稿内に限り仮に付けたものである。

1. 昭和28年 カリフォルニア州リットン小学校からの幹旋依頼

はじめに取りあげるのは、文通とともに絵画の交換が企画された例である。『学生・生徒及び児童作品展覧会関係雑件（I' 門1類5項4目5号）』の2番目の見出し「(2) 日米間の部」内に、カリフォルニア州のパロアルト統合学区（PALO ALTO UNIFIED SCHOOL DISTRICT）に属するリットン小学校（LYTTON ELEMENTARY SCHOOL）から在サン・フランシスコ日本国総領事館にあてて国際文通と絵画の交換について相手の幹旋を依頼した際の文書が綴じられている。それは次の3つの文書である。

◆「文書1-1」総第147号 昭和28年3月7日付け

在サン・フランシスコ日本国総領事館総領事勝野康助名義

外務大臣岡崎勝男あて

「在パロアルト、リットン小学校より本邦児童との文通希望申出の件」

◆「文書1-2」在サンフランシスコ総領事館総第147号付属（＝「文書1-1」付属） 1953年2月26日付け

リットン小学校校長キャスリン・M・ハッバード⁸⁾ 名義

日本国総領事勝野康助⁹⁾ あて

◆「文書1-3」情三第46号 昭和28年3月13日附、附属あり

受信人名 文部大臣

発信人名 外務次官

「在パロアルト、リットン小学校より本邦児童との文通希望申出の件」

上により、次のことがわかる。

カリフォルニア州のパロアルト統合学区に属するリットン小学校の校長キャスリン・M・ハッバード女史（Kathryn M. Hubbard）から、在サン・フランシスコ日本国総領事館の総領事勝野康助あてに、「文書1-2」によって次のような依頼があった。その拙訳を次に示す。また原文を稿末の《註》に示す¹⁰⁾。

（拙訳）

パロアルト統合学区
リットン小学校校長室
カリフォルニア州、パロアルト
リットン通り656

1953年2月26日

日本国総領事

勝野康助閣下

カリフォルニア通り346

拝 啓

リットン小学校の子供たちは日本のほぼ同じ年ごろの子供たちと文通したいという希望を持っています。

私たちの学校には6歳から12歳までの子供が約200人います。もし上述のような文通に関心のある日本の学校について、貴方に心当たりがあれば嬉しいのですが。当方の子供達は日本語で手紙を書くことはできないと思いますが、日本の子供たちから手紙を受け取れば、それが英語によるものであれ日本語によるものであれ、関心をもつことでしょう。

貴国の子供たちによって描かれた絵画にも私たちは大に関心があります。両国の子供間における友好的なあいさつ状の交換に貴方が賛同してくだされば幸いです。

敬具

校長 キャスリン・M・ハッバード

KMH:lee

上の斡旋依頼を受け、在サンフランシスコ日本国総領事館は東京の外務省本省に対して「文書1-1」を作成し「文書1-2」を添付、事情を説明したうえで「就いては然るべく所管当局に御連絡の上本件実現方御配慮相煩わしたい」と依頼した。

この「文書1-1」には校長のキャスリン・M・ハッバードに関して、「さきに本邦児童に対し教科書の寄贈を受けた際、ロバート・フランク夫人に協力した」との説明が書かれており、今回の文通と絵画交換の試みがその流れをうけたものであることが窺える。しかしロバート・フランク夫人についても教科書寄贈についても、それ以上の委細は不明である¹¹⁾。

在サンフランシスコ日本国総領事館から「文書1-1」を受け取った外務省本省は文部省に宛て「文書1-3」を発行し、「委細右にてご諒承の上、手紙・絵画等の交換あつ旋方御配慮煩わしたい」と依頼した¹²⁾。

「文書1-3」を受け取って文部省がどう応じたかについては、またこの事業のその後については、文書ファイルに残された文書からはそれ以上、不明である。

リットン小学校のその後についても今回、調査できなかった。ウェブ・サイト¹³⁾によると、現在、パロアルト統合学区には12の小学校が属しているが、リットン小学校という名称の小学校は存在していない。また「文書1-2」において同校の住所として記されている「656, Lytton Avenue」には、現在、Lytton Gardens という看護付きの老人ホームが存在している¹⁴⁾

2. 昭和28年 神港新聞社社主竹内重一からの斡旋依頼

『学生・生徒及び児童作品展覧会関係雑件（I' 門1類5項4目5号）』の2番目の見出し「(2) 日米間の部」内に、神港新聞社¹⁵⁾の社主、竹内重一が関わった児童作品による国際交流事業についての文書が綴られている。それはつぎの5つの文書である。

◆「文書2-1」文化第249号 昭和28年5月11日付け
在サン・フランシスコ日本国総領事館総領事勝野康助名義
情報文化局長田中三男あて

※添付の文書が2通あって、それが「文書2-3」と「文書2-4」である。

◆「文書2-2」文化第257号 昭和28年5月12日付け
在サン・フランシスコ日本国総領事館総領事勝野康助名義
情報文化局長田中三男あて

※「文書2-2」にはウェディマイヤー理事からの書簡を添付する旨が書かれているが、文書ファイルには綴じられていない。

◆「文書2-3」May 8, 1953 付け
Mr. Haruhisa Kobayashi, Consulate General of Japanあて
Archie Wedemeyer, Director of Art Education名義
※これは「文書2-1」（文化第249号）で言及された「『文書2-1』別添乙号」である。

◆「文書2-4」
EXPLANATORY NOTE

※これは「文書2-1」（文化第249号）で言及された「『文書2-1』別添甲号」である。

◆「文書2-5」（文書番号なし） 昭和28年5月21日付け
戸田外務省情報文化局第三課長名義
石関信助あて
（件名なし）

上により、次のことがわかる。

神戸に本社を置く神港新聞社は、同社のもとにある「日本学童の絵画」¹⁶⁾を外国に寄贈できるようにしてほしいと、東京の外務省本省に依頼をした。その絵画とは神港新聞社後援による「学童間の国際的な友情のための絵画展」の展示作品で、神戸市内の学童により描かれたものである。

神港新聞社からの依頼を受けた外務省本省は在サンフランシスコ日本国総領事館にあてて、昭和28年4

月4日付けで文書¹⁷⁾を発行し、前述の絵画が現地へ寄贈されるよう指示した。

「文書2-4」によって分かるのであるが、この神港新聞社から外務省への依頼は寄贈先の斡旋をしてもらいたいという意味である。すなわち絵画作品をサンフランシスコまで搬送することについては外務省には依頼せず、同社の社長、竹内重一がサンフランシスコへの出張の機会に自身で携行したか、神港新聞社によって別に日本から現地に送付され、いずれにせよ現地総領事館に引き渡された。また、竹内の出張目的は、「新聞編集者と出版社の様々な国際会議に参加するため」である。「文書2-4」については、のちほど拙訳を示す。

本省からの指示を受けて同総領事館は、サンフランシスコ教育委員会芸術教育部理事、アーキー・ウェディマイヤー（Director of art Education, Archie Wedemysyer）に連絡をとった。そして寄贈する絵画と事業について、その趣旨を説明した。絵画には「文書2-4」を添えて、ウェディマイヤー理事に作品を手交した。この「文書2-4」すなわち「『文書2-1』別添甲号」には作成者の名が記されていないが、その内容からおそらく同館で作成したものであろう。

「文書2-4」の拙訳をつぎに示す。また原文は稿末の《註》に示す¹⁸⁾。

（拙訳）

説 明

小学生間の国際的な友情とより良い理解を促進するという目的のために、日本の神戸市域の小中学校の生徒たちは他国の学童に贈ろうと一連の絵を自身で描き調えました。彼らは国外の同年代の学童がかれら自身の絵を神戸の学童に折り返し送ってくれることを望んで、またその結果、彼らの共通の関心事について意見交換するための基礎が築かれることを望んで、この企画に取りかかりました。

神戸市域の学童によって描かれた絵は、神戸の神港新聞の社長であり社主であるS.竹内氏によって合衆国に持ってこられました。氏は現在サンフランシスコを訪問中で、この都市の学童にそれらを贈呈することを望んでいます。

竹内氏が日本を出発するに先立ち、それらの絵は神戸において神港新聞の後援により開催された「学童間の国際的な友情のための絵画展」で展示されました。さらに竹内氏は、この企画に対し最も広範で可能な限りの注目を集めるために、海外から神戸の学童に送られた絵による2回目の展覧会を神戸で開催する意向を持っておられます。

竹内氏は新聞編集者と出版社の様々な国際会議に参加するために、サンフランシスコからロサンゼルス、ニューヨーク、ロンドンおよびパリを訪問する予定です。これらの都市においても、氏は神戸の学童からの同様の贈りものをする予定です。

神戸の学童に送られるすべての絵画と手紙は、日本国神戸市兵庫区阿波町3丁目、神港新聞社長S.竹内気付で届けられる予定です。

以上の結果、それらの絵画は同芸術教育部からサンフランシスコの小学校と中等学校に対し順次、回覧させる措置がとられることになった。

後日、ウェディマイヤー理事から総領事館に「文書2-3」の連絡があった。その拙訳をつぎに示す。また原文は稿末の《註》に示す¹⁹⁾。

（拙訳）

サンフランシスコ統合学区
アダムスビルディング
エディ通り750
カリフォルニア州サンフランシスコ市第9区
1953年5月8日

日本国領事
Haruhisa小林様
カリフォルニア州サンフランシスコ市第4区

カリフォルニア通り346
日本国総領事館

親愛なる小林様:

神戸の学童によって描かれた25枚の絵をたしかに受領いたしました。

これらの絵が白い台紙に貼られ、当方の中学校を巡回しているのをお知りになれば、あなたは喜ばれることでしょう。

絵には、日本の子供たちと文通することを、また交換の絵を送ることを子供たちに誘いかける私からの手紙を添えてあります。

今学期の終わりまでには、多数の絵を交換する準備ができています。

敬具

署名:

アーキー・ウェディマイヤー

芸術教育主事

AW: RM

同総領事館は乙号と甲号のそれぞれの写しををそえて、以上の経過を東京の外務省本省情報文化局長あてに文書「文化第249号」で報告した。また続いて「文化第257号」で報告した。

本省は情報文化局第三課長名義で「文化第249号」「別添甲号」「別添乙号」それぞれの写しを添え、神港新聞社側²⁰⁾の石関信助に以上の経過を伝えた。

ところで「文書2-4」に、竹内重一は「サンフランシスコからロサンゼルス、ニューヨーク、ロンドンおよびパリを訪問する予定です。これらの都市においても、氏は神戸の学童からの同様の贈りものをするでしょう」との説明があり、この作品寄贈の計画がサンフランシスコとの間だけではなく、他の4都市との間でも計画されたものであることが分かる。また上の「文書2-3」によって、このときサンフランシスコ側に寄贈された絵画は25枚であることが分かる。他の4都市に対しても同程度の枚数の絵画が寄贈されたものと想像される。他の4都市との間の交換事業に関する文書が残されているかどうかについては引き続き、調査したい。

3. 昭和29年 「少年保護展覧会」 ニュージャージー州ヴァインランド少年院と東京医療少年院との交換

ファイル『学生・生徒及び児童作品展覧会関係雑件（I' 門1類5項4目5号）』の第2番目の見出し「(2) 日米間の部」内に東京医療少年院と米国のヴァインランド少年院との間で行われた児童画の国際交換に関する文書が綴じられている。本稿ははじめこれまでにまとめた一連の論文で扱った事業は、外務省と文部省が関係する場合がほとんどであって、法務省が関係した例はまれである。

◆「文書3-1」政第1359号 昭和29年6月21日付け

在米特命全権大使 井口貞夫名義

外務大臣岡崎勝男あて

「矯正施設収容少年の作品送付に関する件」

◆「文書3-2」法務省矯正甲第771号 昭和29年7月14日付け

法務事務次官名義

外務事務次官あて

「米国矯正施設収容少年の作品入手について」

上により、次のことがわかる。

東京医療少年院は、日本と外国の「矯正施設」²¹⁾に収容される少年の絵画による展覧会を企画し、法務省に対し作品交換の斡旋を依頼した。依頼をうけた法務省は、外務省に対し4月4日付け「矯正甲第466号」により、同じ依頼をした。

それを承けて、外務省本省は4月13日付け「情三合第421号」により、「矯正甲第466号」²²⁾の写しを添えて、在アメリカ合衆国日本国大使館に同じ依頼をした。

そこで同大使館では米国国務省に依頼した。

その結果、ニュージャージー州に所在するヴァインランド少年院(Training School of Vineland)に収容される少年が描いた絵画10点が同大使館に送付されてきた。同大使館は入手した作品を本省に送付し、ヴァインランド少年院でも日本側の作品を入手したがっているのを送付するようにと伝えた。このときの文書が「文書3-1」である。

◆「文書3-2」法務省矯正甲第771号 昭和29年7月14日付け

法務事務次官名義

外務事務次官あて

「米国矯正施設収容少年の作品入手について」

◆「文書3-3」情三第682号 昭和29年7月20日附

受信人名 在米井口大使

発信人名 外務大臣

件名「日本の矯正施設収容少年の作品に関する件」

上により、次のことがわかる。

ヴァインランド少年院からの作品は、外務省の文書「7月3日付情三第798号」に添えられて、外務省本省から法務省へ転送された。

作品を受け取った法務省は外務省本省に対し「法務省矯正甲第771号」により、作品を受領したことと謝意を伝えた。また、日本からヴァインランド少年院へ寄贈される予定の作品は、日本国内において昭和29年7月20日から25日まで開催される「少年保護展覧会」の終了後、外務省に送付すると回答した。

法務省から上の「法務省矯正甲第771号」を受け取った外務省本省は、在米日本国大使館に対し「情三第682号」を出して、その内容を伝えた。「法務省矯正甲第771号」の写しも添付された。

◆「文書3-4」名刺 法務省矯正局教育課 法務事務官 井田慈清

◆「文書3-5」法務省矯正甲第1028号 昭和29年10月11日付け

法務事務次官清原邦一名義

外務事務次官あて

「少年院在院者の絵画作品の送付について」

◆「文書3-6」「INTRODUCTION OF THE TOKYO MEDICAL REFORMATRY」 1954年9月付け

法務省矯正局名義

◆「文書3-7」情三第1020号 昭和29年10月19日附

受信人名 在米井口大使

発信人名 外務大臣臨時代理

件名 「少年院在院者の絵画作品の送付の件」

上により、次のことがわかる。

絵画10点は、外務省7月3日付け文書に添えられ、外務省から法務省に転送された。その後、7月下旬に「少年保護展覧会」に出品され、「観覧者に多大の感銘を与えた(略)」²³⁾

展覧会終了後、以上の経緯が「法務省矯正甲第1028号」により、外務省に伝えられた。日本の「同種の作品(東京医療少年院の収容者である精神薄弱少年の絵画)二十点」も添えられた。

外務省本省は「文書3-7」を作成して、日本側の作品として東京医療少年院収容者の絵画が法務省から届いたこと、また別途送付することを在米大使館に伝えた。またその絵画をヴァインランド少年院へ転送してくれるように依頼した。

「文書3-6」は「文書3-7」に添えられたものである。つぎに拙訳を示す。また原文を稿末の《註》

に記す²⁴⁾。

(拙訳)
法務省

東京医療少年院の紹介

東京医療少年院は、14歳以上20歳未満である精神薄弱の男性法律違反者を扱う特別な機関の1つとして、1947年5月に政府によって設立された。

この少年院の主な目的は、家庭裁判所によって送ってこられたそれら精神薄弱の少年に対し、様々な専門的考察と調査を行うことである。

これとともに展示される絵は、この少年院に収容されている少年によって描かれたものである。

1954年9月

法務省矯正局
日本国東京

なおヴァインランド少年院(The Vineland Training School)は「1667 E. Landis Ave. Vineland, NJ 08361」に現在も存在する²⁵⁾。「文書3-1」で「ヴァインランド少年院」と訳されているために、以後の文章もそれにしたがっているが、現在の同校の公式ウェブサイト²⁶⁾を参照する限り、知的障害に関する研究機能を備えた教護院ないしは医療少年院と訳するのが適当なようである。

一方の東京医療少年院は、現在、関東医療少年院の名称で東京都府中市新町1-17-1に存在している。

4. 昭和29年 コネチカット州ノーウォーク市シルヴァーマイン美術学校との交換

ファイル『学生々徒及び児童作品交換関係雑件(Ⅰ' 門1類1項0目5号)』の4番目「(4) 米国」に、二科会会員井上覚造が米国の美術学校との間で相互に絵画を交換した事業についての文書が綴じられている。それはつぎの2通である。

◆「文書4-1」紐第217号 昭和29年4月20日付け

在ニューヨーク日本国総領事 島津久大名義
外務大臣岡崎勝男あて

「日本児童の絵画展示に関する件」

◆「文書4-2」情三第129号 昭和29年4月30日付け

外務事務次官名義
文部事務次官あて

「日本児童の絵画展示に関する件」

上により、次のことが分かる。

昭和28年に二科会会員井上覚造²⁷⁾がコネチカット州ノーウォーク市シルヴァーマイン美術学校を訪問した。その際同校の生徒の作品を持ち帰り、大阪などで展覧会を開催した。

そのお返しとして、井上は関西地方の児童の作品を集め、それらを昭和29年²⁸⁾に同校に送った。

そこで同校ではそれら日本児童の絵画約50点を同校主催の第2回児童芸術祭に陳列した。4月9日夜、芸術祭の開場式が行われた。同校から在ニューヨーク日本国総領事館に要請があり、同館は館員を参列させた。米国国務省からも「トッド氏」が列席した。在ニューヨーク日本国総領事館は「文書4-1」によって東京の外務省本省に「右催しが国際間の理解を大いに増進するものと一般に見られているようで、同芸術祭のタイトルも“Art From Osaka”の言葉が選ばれていた」報告した。

「文書4-1」においてはまた「右日本児童の作品に対する米国側の批評は極めて良いので、当地ジャパン・ソサイエティが広く米人に展示したいとの意向を洩らしている外、右芸術祭(四月九日から三十日まで)終了後同地方の他の学校等で、さらに展覧会を開く計画が伝えられている」と報告している。

「文書4-1」には「開場当日における同校の新聞発表」と「地方新聞切り抜き」及び「同美術学校から

入手した資料」が添付されたが、これらは外務省の当ファイルには残されていない。「文書4-1」の報告を受けた外務省は「文書4-2」を作成し、以上を文部省に報告した。そのときさらに「文書4-2」に添付されて文部省に渡ったと考えられる。それら添付の3文書によってさらにこの事業の詳細、とくに米国側の日本の児童画に対する評価等がわかるはずであるが、文部省保管の文書は今回は調査できなかった。

さて井上覚造はなぜこの事業を企てたのであろうか。井上は昭和20年に二科会会員に推挙されている。その二科会は昭和27年から「こども二科展」を開催している。彼が渡米した主目的は不明であるが、彼がシルヴァーマイン美術学校を訪問したのは昭和28年であることが「文書4-1」に記されている。彼が同校を訪問し、同校生徒の作品を持ち帰ったのは、渡米前年にこども二科展が発足していることが関係しているのかもしれない。また井上が関西地方から集めてシルヴァーマイン美術学校に送ったという児童画50点も「こども二科展」の入選作から選ばれたことが十分に考えられる。ただしこれらに根拠はなく、私の想像にすぎない。

おわりに

今回2つの公文書ファイルから日米間で昭和20年代に行われた児童画による国際交流に関する事業を4件見出し、断片的な通信文から、事業のあらましや趣旨を読み取り、考察した。文書ファイルに綴じられた文書は、そのほとんどが通信文であって、事業自体については断片的にしか記されていない。そこから知り得る断片的な情報をつなぎ合わせて考察し、こんにち全く忘れ去られている事業の復元を試みているわけである。単に初出の史料を書き写して報告しているのではないことを理解していただきたい。

本稿で取りあげた4件の事業の趣旨や当事者はそれぞれ全く別の趣であった。本稿で取りあげた順に記すと、次のとおりである。

1番目の事業は、国際文通の斡旋依頼が主で、絵画の交換もあわせて外務省に依頼されたものである。文通とあわせて児童画交換が企画されることは、昭和戦前期からも行われていた。

2番目の事業は、新聞社が後援した国際的な児童画展に関するものである。ここでは日本側からは絵画を贈ったのに対し、先方は文通と絵画の交換を希望している。1番目の事業同様、文通と絵画交換が組になっていることに気を留めておきたい。

3番目の事業は、法務省が管轄する機関の事業について外務省が仲立ちしたもので、まれな例である。単なる国際親善ではなく、専門的な研究のための資料収集や、社会に対して施設や入所者に対する理解を広げるといった目的もあったのではないかと思うが、詳細は不明である。

4番目の事業は、画家と美術学校という美術を専門とする者どうしでの交換であった。ただし児童画展と学校という教育に関わる者どうしという見方もできる。

さて、文書中に文書の番号やその存在のみが記され、現物は文書ファイルには残されていない場合が多かった。言い訳がましいが、それらには事業の詳細や評価が記されていると思われる場合が多く、残念である。

文書ファイルに文書が残されていないのは次のような事情であろう。文書が在外公館から東京の外務省本省へ送ってこられ、それを受け取った本省からさらに他省や他機関、また個人に報告や依頼をする場合、元の文書が添付されることが多い。コピー機の普及したこんにちとは違って、文書の複製が容易ではなかった当時は、控えではなく元の文書自体を添付し転送してしまうことは普通のことであったと考えられる。この場合、外務省には文書が残らない。また外務省で起案した文書でも正式な文書そのものは発送されてしまう。外務省の文書ファイルに文書が残されている場合でも、外務省本省発の文書はたいてい起案時の原稿が残されているのである。

そこで文書ファイルに綴じられた文書自体の調査に続いて、事業の当事者に対する調査を追加すべきなのであるが、本稿ではこれが不十分に終わったことが反省される。また事業の当事者の方でも、当時から現在までの間に多くの変化があったようである。1件目のリットン小学校、2件目の神港新聞社、3件目の東京医療少年院、4件目のシルヴァーマイン美術学校はいずれも当時の名称のままでは現存していない。昭和戦後期の事業ながら、すでに多くの時間が経過していることを感じさせられた。

《註》

- 1) 東京都港区麻布台1-5-3
- 2) 平成9年度の事業であるが、実際に公開されたのは平成10年度である。
- 3) 公開はマイクロフィルムによる。
- 4) 「アジア・アフリカ民族展覧会（昭和33年）－公文書による児童画国際交換の研究－」, 平成16年2月, 「福岡教育大学紀要」第53号第5分冊, 福岡教育大学
- 5) 「児童画による国際交流・対中南米諸国・昭和30年代－公文書による－」, 平成17年2月「福岡教育大学紀要」第54号第5分冊, 福岡教育大学
- 6) 「児童画の国際交換・対ドイツ連邦共和国・昭和30年代－公文書による－」, 平成18年2月「福岡教育大学紀要」第55号第5分冊, 福岡教育大学
- 7) 「児童画による国際交流・対ヨーロッパ諸国・昭和30年代－公文書による－」, 平成19年2月「福岡教育大学紀要」第56号第5分冊, 福岡教育大学
- 8)

PALO ALTO UNIFIED SCHOOL DISTRICT
 OFFICE OF THE PRINCIPAL
 LYTTON ELEMENTARY SCHOOL
 656, LYTTON AVENUE
 PALO ALTO, CALIFORNIA
 Kathryn M. Hubbard
 Principal
- 9)

Honorable Yasusuke Katsuno
 Consul General of Japan
 348 California Street
 San Francisco 4, California
- 10) 「文書1-2」の原文

PALO ALTO UNIFIED SCHOOL DISTRICT
 OFFICE OF THE PRINCIPAL
 LYTTON ELEMENTARY SCHOOL
 656,LYTTON AVENUE
 PALO ALTO, CALIFORNIA

February 26, 1953

Honorable Yasusuke Katsuno
 Consul General of Japan
 348 California Street
 San Francisco 4, California

Sir :

The children of Lytton School are interested in corresponding with children at approximately the same age level in Japan. We have about 200 children in our school between the ages of 6 and 12. If you have any Japanese School which would be interested in such a correspondence, we would be happy to hear of it. Our children would not be able to write in Japanese but they would be interested in receiving letters from your children in either English or Japanese.

Pictures painted by children of your country would also be of great interest to us. We would appreciate anything that you feel would be appropriate in the way of interchange of friendly greetings between the children of our two countries.

Sincerely yours,
Kathryn M. Hubbard
Principal

KMH : lee

- 11) ロバート・フランク (Robert Frank) は、1923 年にスイスのチューリヒに生まれ、1947 年にアメリカに移民した世界的に知られたフォトジャーナリストであるが、「文書 1-1」に記された「ロバート・フランク夫人」が彼の夫人を指すのか否かは不明である。
- 12) 「文書 1-3」には文書番号や件名等とともに「附属あり」と記されている。「委細右にて」とは「文書 1-3」に添付された「文書 1-1」のことであろう。さらにこれには「文書 1-2」もそのまま添付されていたかもしれない。
- 13) パロアルト統合学区の公式ウェブ・サイト (<http://www.pausd.palo-alto.ca.us/>) による。
- 14) 同ホームの公式ウェブ・サイト (<http://www.lyttongardens.org/index.html>) による。
- 15) 昭和 21 年 (1946) 4 月、神戸新聞社により夕刊紙の別会社、神港夕刊新聞社として設立された。同社は昭和 23 年 (1948) 8 月、神戸新聞社から独立し、紙名を『神港新聞』に改題した。さらに昭和 34 年 (1959) 11 月、『兵庫新聞』と改題した。しかし経営不振により昭和 43 年 6 月 1 日付で休刊となった(以上は神戸市文書館公式ウェブ・サイト <http://www.city.kobe.jp/cityoffice/06/014/shiryoku/shinbun02.html>を参考にした)。
- 16) 「文書 2-1」の表記による。
- 17) この文書は「文書 2-1」に記述されているだけで、文書ファイルには残されていない。
- 18) 「文書 2-4」(原文)

EXPLANATORY NOTE

With the object of promoting international friendship and a better understanding among school children, students of elementary and high schools in the Kobe city area of Japan have prepared a series of pictures drawn by them for presentation to school children of other countries. They have undertaken this project in the hope that school children of similar age outside Japan will reciprocate by sending their own drawings to them, and thereby establish a basis for the exchange of ideas in their fields of common interest.

The pictures drawn by school children of the Kobe City area have been brought to the United States by Mr. S. Takeuchi, President and publisher of the Shinko News-paper of Kobe who is currently visiting San Francisco and who desires to present them to school children of this city.

Prior to Mr. Takeuchi's departure from Japan the drawings were displayed in an "Exhibition of drawings for international friendship among school children" held under the sponsorship of the Shinko Newspaper in Kobe. Moreover, it is Mr. Takeuchi's intention to hold a second exhibition in Kobe of drawings sent to the school children of Kobe from abroad in order to give the project the widest possible publicity.

From San Francisco Mr. Takeuchi will visit Los Angeles, New York, London and Paris to attend various international conferences of newspaper editors and publishers.

In these cities also he will make similar presentations from the school children of Kobe.

All drawings and other communication sent to the school children of Kobe may be addressed to them, care of Mr. S. Takeuchi President The Press Shinko,
3-chome Awamachi, Hyogo-ku, Kobe, Japan

- 19) 「文書 2-3」(原文)

SAN FRANCISCO UNIFIED SCHOOL DISTRICT

Adams Building
750 Eddy Street
San Francisco 9, California
May 8, 1953

Mr. Haruhisa Kobayashi
Consul of Japan
Consulate General of Japan
346 California Street
San Francisco 4, California

Dear Mr. Kobayashi:

This is to confirm the receipt of 25 pictures drawn by Japanese school children of Kobe.

You will be happy to know that these pictures have been matted on white board and are circulating throughout our junior high schools.

Along with the pictures is a letter from me inviting the children to correspond with the Japanese children and to send them pictures in exchange.

It is expected that by the end of this term there will be a number of paintings ready for exchange .

Most sincerely yours,

Signed:

Archie Wedemeyer

Director of Art Education

AW : RM

20) この文書が竹内重一あてでないのは、竹内がまだ欧米から帰国していない可能性を考慮してのことであろう。石関信助については肩書きが記されていないが、社長の留守を預かる神港新聞幹部社員かこの事業の実質的な担当者であろう。

21) 「文書3－1」における表記。

22) 文書ファイルには残されていない。

23) 「文書3－5」による。

24) 「文書3－6」(原文)

MINISTRY OF JUSTICE

INTRODUCTION OF THE TOKYO MEDICAL REFORMATRY

The Tokyo Medical Reformatory was established by the Government in May, 1947 as one of special institutions for feeble-minded male delinquents who are 14 to not older than 20 years of age.

The main objectives of the Reformatory are to pay various professional considerations and researches on those feeble-minded boys and to treat them who were sent by the Family Court.

The pictures exhibited herewith are those which were drawn by boys in this Reformatory.

September, 1954.

Correction Bureau,
Ministry of Justice,
Tokyo, JAPAN.

25) 「文書3－1」には、The Training School of Vinelandとある。

26) <http://www.vineland.org/history/trainingschool/index.html>

- 27) 明治38年(1905), 大阪市生まれ。昭和3年(1928)年, 神戸高等商業学校卒業。信濃橋洋画研究所で小出櫓重に学ぶ。昭和5年(1930)年, 二科展に初入選。昭和20年(1945)年, 二科会会員に推挙される。昭和53年(1978)年, 二科会理事就任。昭和55年(1980), 歿。
- 28) 昭和29年4月20日付けの「文書4-1」に「最近」とある。